

形成外科診療のご紹介

形成外科 大西智子

形成外科とは、生まれつきあるいは外傷や腫瘍切除後などによる体外表の形状の変形や欠損、色調の変化などを、外科的手技など様々な特殊な技術によって機能的、整容・形態的に可能な限り正常に、より美しい状態にし、個人を社会適応させることを目的とする、外科系の専門領域です。

今年 4 月より形成外科では、乳癌術後の乳房再建術、眼瞼下垂症手術、ボトックスによる多汗症治療（保険診療）、ボトックスによるしわ治療（自費治療）を診療内容に追加し、最新の形成外科治療を提供できるよう努めております。

今回はあまり聞きなれない乳癌術後の乳房再建についてご紹介させていただきます。

近年日本女性の乳癌罹患率が増えており年々増加傾向にあります。女性の癌の第1位をしめるようになりました。

他の癌と異なり、乳癌は長い経過を要する疾患であり、患者さまは生命予後の心配と乳房を失うという2つの大きな問題を抱えることになります。乳房を失うことで女性としての自信を失い、うつ傾向になる患者さまも少なくありません。

こういった背景のもと、そういった方が少しでも前向きに人生を送っていただくためにも乳房再建は重要な役割をはたしていくものと思っています。

乳房再建を希望される人が増えてきたことが影響し2006年4月より自家組織移植での再建が保健適応になりました。自家組織とは自分の背中やお腹の組織を使用して乳房を再建する方法です。

また自分の組織を使用せずに、人工物（乳房インプラント）を使用して再建を希望する方に対しては2014年1月からインプラントによる再建も保健適応になりました。この影響により一層乳房再建患者数が増えてきているのが現状であります。愛媛県内では、再建施設が限られており、再建の相談をしたくてもなかなかできない状況の方はいらっしゃると思います。

当院では、乳房再建用エキスパンダー／インプラント実施施設であります。症例写真等もお見せしながら、個々の患者様にあった最善の治療方法を提供できるよう努めて参ります。

少しでも気になっておられる方は是非当院形成外科（火曜日、木曜日）にお越しください。



本邦で使用している乳房インプラント